

2月10日（金）にホームページに掲載しました1年生教室南の「あまなつ」に関わる物語が、今から7年前の平成28年2月26日（金）付けの「ほづみっ子」に掲載されていたので、再掲させていただきます。

### ☆1000個の「あまなつ」物語 ～あまなつ君のしあわせ～

1ねんせいのきょうしつの前に、1本のあまなつみかんの木があります。その木は「あまなつ君」とよばれていました。あまなつ君は、あついなつも、さむいふゆも、まい日1年生と2年生のべんきょうのようすをみまもってきました。そのすがたをみていたあまなつ君は「ぼくもみんなといっしょにべんきょうしたいなあ。」と思うようになりました。そして、なん年もなん年もそう思っていました。あまなつ君は、にんげんになることはできませんでした。

「にんげんにはなれないけど、ぼくの実をたべてもらって、にんげんをよろこばせてあげることはできるかもしれない。」そう思ったあまなつ君は、じめんからいっばいえいようすをすって、たいようのひかりをいっばいあびました。するとあまなつ君のからだはどんどん大きくなりました。なん年もたってあまなつ君は、りっぱなみきをもつおとなになりました。でもなぜか、思うようにたくさんの実がなりませんでした。

「よし、ほづみ小の子どもたちから“げんき”というえいようすをもらおう。」とあまなつ君は思いました。子どもたちのまい日のげんきなあいさつやがっしょう、いっしょうけんめいべんきょうするすがた、グラウンドで思い切りあそぶようすを見ることで、それをあまなつ君はえいようすにかえていきました。

するとどうでしょう。すこしずつたくさんの実がなるようになりました。「よし、もっとげんきのえいようすをもらって、ほづみ小のおともだちぜんいんに、ぼくのおいしいあまなつをたべてもらおう。」とめあてをもったあまなつ君の実は、まいとしふえていき、なんとういうことでしょうか、とうとうことし1000この実をつけたのでした。あまなつ君からのあまくてすっぱいプレゼントをもらったほづみ小のおともだちは、みんなとびきりのえがおになりました。そして、それを見たあまなつ君はもっとしあわせになりました。

はじめて1000個以上収穫できた感動を当時の教頭先生が物語として紹介された文章です。